

福岡リウマチ井戸端の会

-第22回メディカルスタッフセミナー- IN アクア博多



開催日時：2019年11月15日(金)

【参加者】

看護部：中野

薬剤部：斜木

リハビリ部：岡田/櫻井/城ヶ崎

メディカルスタッフセミナー



【話題提供】

「リウマチと骨粗鬆症」

浜の町病院 薬剤部 石丸 隆之先生

【特別講演】

「関節リウマチにおける治療(薬物治療、手術)を考える
～手術のタイミングと周術期の注意点も含めて～」

福岡徳洲会病院 人工関節・リウマチ外科センター センター長
長嶺 隆二先生

早期発見と進行への備え

「いかに早くリウマチ因子を発見するかが大切」

セミナーのメインテーマは「リウマチ(RA)の起源と手術」の理解でした。リウマチを発症する起源について、近年の研究で「人間の体にある粘膜から広がっているのではないか？」ということが分かってきたそうです。そのため、これまでRAは指や膝など関節の病気と言われていましたが、全身に影響する疾患だと捉える必要があり、腸内粘膜で細菌との戦いが長引いてしまうと、自己免疫に影響を及ぼす可能性があるとの事でした。



【TOPIX】大都市圏内における都会的な生活を送っている人達は、多様な食生活により様々なバクテリアが腸内に入ってくるため、RAの疾患数も多くなるようです。

今回のセミナーで印象に残ったことは、関節リウマチ患者の腸内にいる微生物は、健康な人よりも特定の細菌が多いことが分かっているという事でした。リウマチは本来、体を守るはずの免疫細胞が自分の体を攻撃して炎症が起きる自己免疫疾患の一種です。講演の中では、粘膜に存在する微生物は体の免疫などに影響すると考えられており、このような細菌がリウマチの発症につながっている可能性があることなど、新たな治験とともに分かりやすく情報を共有していただくことができました。今回の井戸端の会では、リハビリテーションに対する考えも意見交換することが出来たことで、今後さらにチーム医療として幅広い職種で取り組んでいく必要性があることを実感することができました。

南川整形 リウマチ智の会